

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策（松江市立鹿島中学校）

平成30年9月25日

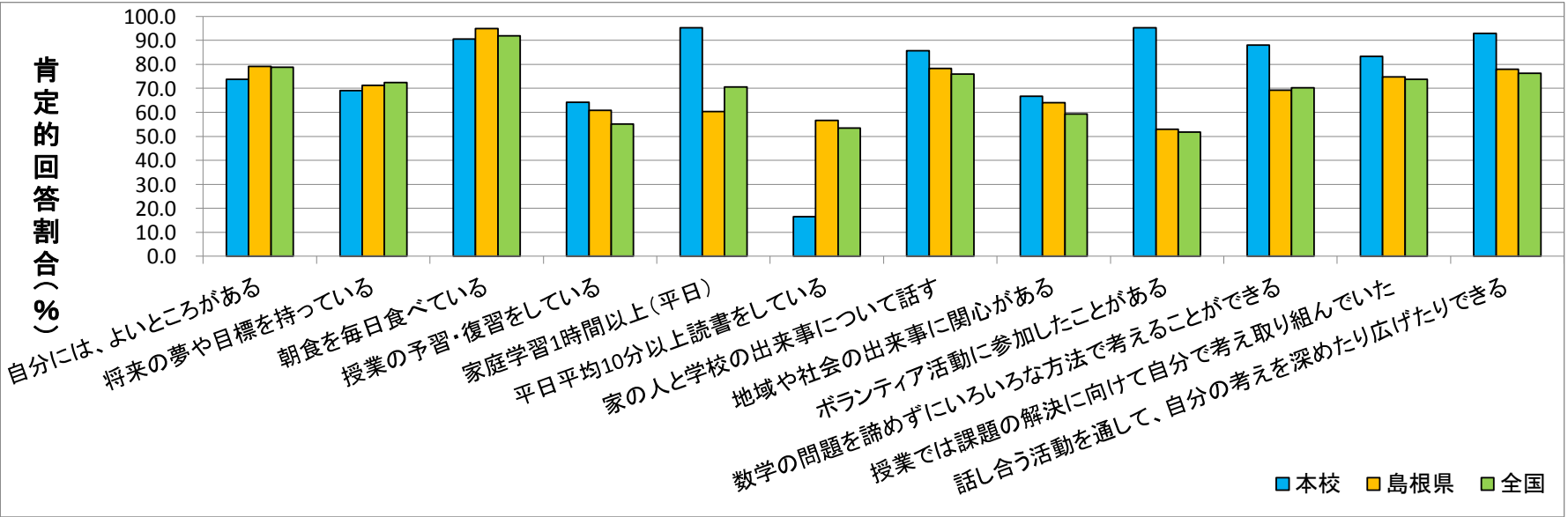
(1) 学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題(○：成果，●：課題)	対 策
国語	A (基礎)	○「話すこと・聞くこと」と「話す・聞く能力」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」と「言語についての知識・理解・技能」は、県及び全国 の平均正答率を上回った。 ●「読むこと」と「読む能力」は、県及び全国の平均正答率を下回っており、 特に説明文の中での文の役割を読み取ることに課題がある。	・説明文の授業では、それぞれの段落や文の役割を、生徒 の言葉で説明する場を取り入れる。 ・どの単元においても、文章の中での描写や表現の工夫に 着目した授業展開を心がける。
	B (活用)	○「書くこと」と「書く能力」、「読むこと」と「読む能力」については、県及び全 国の平均正答率を上回った。 ●A(基礎)では県及び全国の平均正答率を上回っていた「話すこと・聞くこ と」が、B(活用)では、下回った。「話すこと・聞くこと」について、応用する 力が課題のである。	・グループ学習において相互に発表した後、必ずワークシ ートにコメントを書かせたり、質疑応答の場面を設けたりするこ とによって、「話す力・聞く力」を高めるようにする。
数学	A (基礎)	○全ての領域において全国平均・島根県平均を上回った。特に図形領域 で、条件をよみとり、正しく処理をする力が定着した。 ●比例の説明や反比例のグラフと表の関係を理解することに課題がある。	・授業において、個で考える活動、ペアやグループの形態で 考える活動、全体で発表する活動を状況に応じて使い分け る。 ・授業や宿題で、自分の考えを文章で説明する機会を設け る。
	B (活用)	○全ての領域において県及び全国の平均正答率を上回った。特に関数領 域で、グラフを正しくよみとり、処理する力が定着した。 ●計算の過程が何を表しているか自分の言葉で説明することに課題があ る。	
理科		○「枠組み」、「領域」、「評価の観点」、「問題形式」の全てで、県及び全国 の平均正答率を上回った。特に領域では物理で、評価の観点では観察・実 験の技能で、問題の形式では記述式で大きく上回った。 ●ある現象を説明するときに、適切な用語を正しく使うことに課題がある。	・問題演習など補足的な時間を確保することや、実験・観察 の時間を充実させることなど、現在留意して行っていること を継続する。 ・極端に正答率が低かった内容について精査し、類似の課 題についても対応できるような方策を立てる。

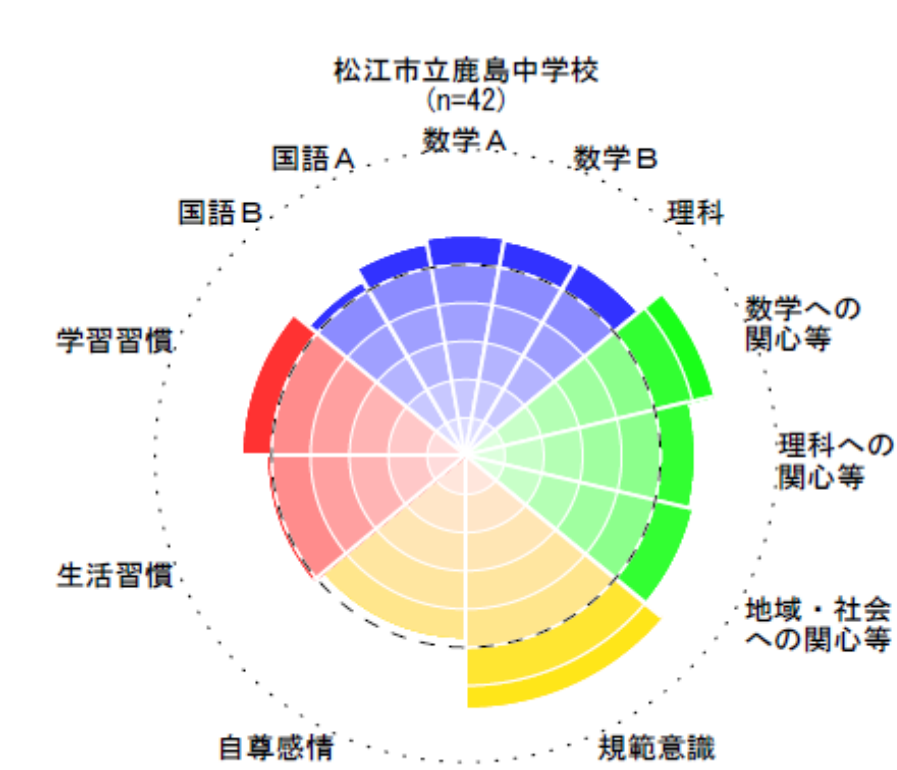
(2) 生活意識調査から見られた傾向

成果と課題(○：成果，●：課題)	対 策
○地域社会などでのボランティア参加率がとても高い。 ●自己肯定感については、低い生徒が多い。	・地域のボランティア活動への参加を通して、地域の人たち とのコミュニケーションの機会を増やす。 ・地域の中で、自分が役立っていることが実感できるように、 地域の人の声や思いを積極的に伝える。

(3) 意識調査（学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています）



(4) 学力調査及び生活意識調査から見られた傾向（破線は全国平均）



(5) その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・各教科担当と学年部が連携し、自主学習やT Tを活用しながら、 基礎・基本の定着を一層図る。 ・各生徒が自己有用感を持てるように、より一層学校行事や地域の ボランティア活動、日常の係活動などへの取組方法を工夫する。
--

【参考】

		平均正答率 (%)			
国語	A	79	76	76	76.1
	B	62	61	61	61.2
数学	A	72	65	64	66.1
	B	52	46	45	46.9
理科		71	65	66	66.1

受検者数 42 人
※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示しています。